

試行運行事業評価基準について

1. 前提

①地域交通（コミュニティバス及びワゴン）の目的

- ・交通空白地域の解消
- ・高齢者の外出支援
- ・病院や公共施設、商店街等へのアクセス確保

②コミュニティワゴン（乗合タクシー）導入の目的

- ・車道幅員の問題で路線設定できなかった地域への乗合交通導入
- ・車両代を抑えることで、路線あたりの経費削減

③今回の試行運行の目的

- ・利用者の需要の有無を確かめる
- ・比較的狭い道路への乗り入れによる新規需要開拓
- ・既存ルートの見直し

2. 評価の視点

A. 必要性

コミュニティワゴンの導入が、市民のニーズ等に照らして妥当であるかどうか、などの視点をいう。

例）利用者数、利用頻度、認知度、アンケート回収率等

B. 有効性

コミュニティワゴンの導入により期待される効果が得られるかどうか、又は実際に得られているかどうか、などの視点をいう。

例）満足度、施設利用者増減、コミュニティの形成、高齢者の外出支援、採算性等

3. 評価レベル

今回の試行運行において、評価を行う項目のレベルはおおよそ次の3つに分けられる。

（1）具体的なサービスのレベル（レベル1）

車いす対応や乗残しのお客さんへの対応等、個々の具体的なサービスの評価を行う。

（2）停留所や路線といった運行計画のレベル（レベル2）

路線や停留所、ダイヤ等運行に直接関係する要素の評価を行う。

（3）事業の継続・廃止といった事業計画のレベル（レベル3）

試行運行事業そのものの継続または廃止を前提とした全体の評価を行う。

これまでに挙げた評価指標のうち、レベル1のみに関するもの、レベル2とレベル3に関するもの、すべてのレベルに関するものなど多岐にわたるが、以下各レベルにおける評価の指標、方法、数値基準及び対策について列挙する。

※移行ライン：その数値よりも良い数値の場合、本運行への移行を検討すべき数値ライン

※改善ライン：その数値よりも悪い数値の場合、何らかの改善策を講じる必要のある数値ライン

※廃止ライン：その数値よりも悪い数値の場合、該当する項目について廃止を検討せざるをえない数値ライン（「廃止」とは、別形態の交通システム（デマンド交通導入、福祉バス化、タクシー券補助等）に置き換えることを前提であることを含意する）

定時性	ダイヤとの乖離時間	有効性	2		3 分以内		月例報告	
車いす利用者数	車いすの方の利用回数	有効性	1		1 人/月	5 人/年	月例報告	
乗に残し人数	満員のため乗車できなかった人数	有効性	1		3 人/月		月例報告	
乗に残し件数	満員のため乗車できない事態が発生した件数	有効性	1		3 件/月		月例報告	
福祉会館利用者数 (参考)	くにっこ及びコミュニティワゴン全ルートが通る、福祉会館の利用者数（対導入前比）	有効性	3	20%増	10%増		施設調査	
公共施設利用者数 (参考)	市役所等公共施設の利用者数（対導入前比）	有効性	3		10%増		施設調査	